

第13回 シアターX^{カイ} 国際舞台芸術祭2018 ビエンナーレ

2018年6月15日～7月16日



出場参加しよう!

■参加条件■

- ① フェスティバル期間中に1ステージの公演ができます。
ダンス・演劇・パフォーマンスなど舞台芸術全般。
上演時間: (a) 15分以内 (b) 40分以内
- ② 経費負担について
* 劇場・宣伝にかかる経費は、シアターX IDTFが負担。
* リハーサル・仕込み・本番のスタッフもシアターX IDTFが負担。ただし、参加者側が独自に行う宣伝、及びスタッフを準備する場合は、自己負担。
- ③ 参加費について
* 参加費 (a) 30,000円 (b) 50,000円。
* 参加者はチケット(1,000円)を800円に割引します。

フェスティバル参加者には、自らの作品発表だけではなく他の作品を観ることも大切です。全作品有効のフリーパスを差しあげています。また、毎ステージ後に観た人と演じた人が一緒に話し合う「アフターミーティング」を行います。

■応募方法■ 2018年3月10日提出締切

- 次の3点を送付してください。
- [1] どのような作品を創ろうと思っているのか
A4 一枚以内で表わしてください。
 - [2] 応募グループのプロフィール、連絡先を明記。
 - [3] 審査手数料として3,000円分の定額小為替。

2018年3月21日 実技審査

シアターX 劇場舞台にて
応募作品の創作途中のものか、任意のものも10分程度でプレゼン、その後インタビュー。

■審査員■ シアターX IDTF実行委員

西田敬一 折田克子 ケイタケイ 矢野通子 八木昭子
榎本妃佐子 古賀豊 山本健翔 逸見輝羊 上田美佐子
(その他 特別審査員を予定)

プレ・シンポジウム

四次元の 詩人ふたり
『かぐや avec アインシュタイン』について



寮 美千子
(作家)



四方田 犬彦
(批評家)



丹下 一
(演出家・俳優)



【司会】西田 敬一
(IDTF実行委員・サーカス制作)

2018年 1月7日(日) 15:00～ 劇場舞台にて

【参加費】1000円

第13回「シアターX^{カイ}国際舞台芸術祭2018」 プレ・シンポジウム登壇者紹介

「シアターX国際舞台芸術祭」実行委員会は、第12回『北斎とかぶこう！』が終了して直ぐの2016年夏より第13回のメインテーマについて論議を始め、論議の末ようよう『かぐや avec アインシュタイン』と決定、例年行なう プレ・シンポジウムの登壇者として、まず四方田犬彦氏にお願いをしました。

四方田犬彦氏は、第11回X-IDTF『つくり噺』におけるシンポジウムや、タデウシュ・カントル生誕100年祭での『カントル研究会』、今年は翻訳をなさったイルダ・イラスト『わたしの犬の眼で』を自ら朗読なさるなどシアターXではおなじみの方。

その四方田氏より「自分は“かぐや姫”のことは話せるがサイエンスの方はとてもすばらしい適任者がいますよ」と紹介いただいたのが詩人で作家の寮美千子さん。

寮美千子さんは東京生まれ、千葉育ち。外務省勤務やコピーライターを経て1986年毎日童話新人賞を受賞。2005年『楽園の鳥』で泉鏡花文学賞を受賞。翌年、古都に憧れ首都圏より奈良に移住。絵本、詩、小説、自作朗読と幅広く活躍中。主な著書に『星兎』『夢見る水の王国』など…… というユニークな方ですが、実は御祖父様の寮佐吉氏は科学ライターの先駆けで、アインシュタイン博士が来日した大正11年、講演会の前座として「相対性理論」の講演を行なった方。（ビックリ！）

しかも寮佐吉氏の訳した『通俗科学講話叢書第三篇 通俗電子及び量子論講話』が宮沢賢治の蔵書にあり、宮沢賢治の“幻想第四次”を走る『銀河鉄道の夜』の源泉につながった…というのですから。

寮さんご自身も天文に興味を持ち、天文学を題材としたサイエンス・ファンタジー『小惑星美術館』『ラジオスターレストラン 千億の星の記憶』などの著書も。

丹下一氏は また、この『ラジオスターレストラン 千億の星の記憶』オペラ化の際に演出をされた。その後も連続企画で寮さんの作品を舞台化しておられ、その他ご専門の民俗芸能をベースにした現代演劇や、2015年からは東北の震災への思いをテーマにした「Hamlets/ハムレッツ」シリーズの上演など国内外で活動、シアターX “ユージーン・オニール上演研究会”にも出演されておられ、X-IDTFに最もふさわしい演出家、俳優として お願いいたしました。